



白兔に
XXX
間違っ

を求め
るのは
ている
だろう



べるくんから
女の臭いがする…



な、なにを
いってるん
ですかっ

香まきぎ
アキ

しん

しん



この嫌な
臭いは—



ヴァレン何某の
モノに違いない!



どういうこと
なんだい
べるくん!!

僕というものが
ありながら!

ガッル





かみさま!
ごめんない!

ああ:
いってしまった

まってくれ!
ベルくーん!

うわああ
あああ!

えっ!

ガッ



なんですかこれ!

ちやー

ひっかかった
ようだね
べるくうん

ひっか
ひっか
ひっか



こういうことも
あろうかと

あらかじめ
張り巡らせて
おいたのだよ!

なに、無駄な事
してるとですか!?



今夜こそは
逃がさないぜ!

まだ朝ですよ!



むーハ
きみはこんなときにも
ヴァレン何かかい？

フフ...



ぼ、ぼくは
アイズさんが！



この僕を
差し置いて



他の女と
よろしくしてる
気味が悪いんだぜ

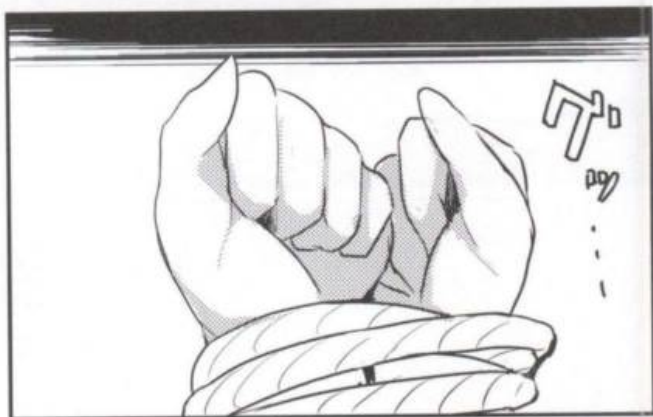
!!
いよん



こっちのベルくんは
まんざらでもない
みたいだぜ？



べるくんは
おとなしくして
いてくれ！



ど、どうして縄が――

魔法か!?

すっ…

神様が、
わるいんですよ――

しまった、
意地悪しすぎたか!

ド
+
+
+
川

かみさま――
やられっぱなしは
いやです……

僕からさせて
ください――

ドキ

ニギ

ついにこの日が
きたんだね——！

はま

ドキ
ドキ

はま

うれしくてどうにか
なってしまうそうだよ
ベルくん！

ドキ
ドキ

はじめて
だから

やさしくし
くれよな…





ベルくん！
もっと——もっと
君を感じさせてくれ！

どうだい？
ぼくの臍内は？

あ♡

すっ

すっ



ああ、ベルくん
と遂に——

これで
僕たちは！

かみさまの中
すごいですっ









*Faker's Manual
presents*